

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 21 年 2 月 3 日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4092100033		
法人名	有限会社 ケアサポート山栄		
事業所名	グループホーム こすもす		
所在地	福岡県嘉麻市平山16番地 〒 820-0506 (電話) 0948-62-5044		
評価機関名	社会福祉法人 福岡市社会福祉協議会		
所在地	福岡市中央区荒戸3-3-39		
訪問調査日	平成21年1月26日	評定確定日	平成21年3月2日

## 【情報提供票より】(平成 21 年 1 月 5 日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 20 年 4 月 1 日						
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人				
職員数	12人	常勤	1人	非常勤	11人	常勤換算	7.8人

### (2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1階建ての～	1階部分	

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無(一時金を含む)	有(100,000円)	有の場合償却の有無	有	
	無		無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日あたり		1,100円程度	

### (4) 利用者の概要(1月5日現在)

登録人数	7名	男性	3名	女性	4名	
要介護1	2名	要介護2	3名			
要介護3	2名	要介護4	名			
要介護5	名					
要支援1	名		要支援2	名		
年齢	平均	83歳	最低	75歳	最高	90歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	青柳医院 / 佐谷医院 / アイ歯科 / 西歯科クリニック
---------	-------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

居室や玄関ホールをゆったりと確保し開放感を持たせたホーム内は、段差がなく安全に移動ができる。リビングの大きな掃きだし窓からは外の景色を眺めることができ、利用者がソファでくつろぐ姿から、心地よく過ごしている様子が伺えた。開設して1年のホームであり、隣町と隣接しているなどの立地条件にありながら、町内会や近隣住民との連携・交流に力を注いでいる。入居前までは全介助での食事摂取であった利用者が、ホーム入居後は介助なしで食事をとることが出来るようになったり、この1年で自宅復帰が2名みられるなど、ホーム理念である「目配り・気配り・心配り」を常に意識して自立支援に向けた対応が行われており、幸せに満ちたホームである。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 今回が始めての外部評価の受審である。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 外部評価を受審するにあたり、職員会議にて話し合い、自然体で挑み、質の向上に真摯に向き合う姿勢を確認しあうなどの取組みが見られた。
重点項目	運営推進協議会の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 町内会長、行政担当職員、法人代表、施設長、家族、利用者等を交えて、2ヵ月毎の開催がある。行事や利用者の様子等についての報告、家族から行政へホーム増床の要望が出されるなど、意見交換の場となっている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9) 家族面会時の説明や報告、状況に応じてのその都度の電話連絡、介護計画書の説明時の声かけなどを通じて意見や思いの表出に努めている。出された意見等は、連絡帳を活用して職員間で共有するなどの取組みがある。利用料金の支払いは、窓口支払いを義務付けており、最低でも月に1度の家族等の面会及び面談の機会の確保に努めている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会への加入、町内行事への利用者の参加、幼児サークルの受入れ、ホームでの町内有志による獅子舞披露、ホーム行事のお知らせを配布しての地域住民の見学など、地域交流への取組みがある。

## 2. 調査報告(詳細)

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1 理念の共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続ける ことを支えていくサービスとして、事業 所独自の理念をつくりあげている	管理者が基本となる部分を作成し、職員間で 検討して理念を作り上げた。「見配り、気配 り、心配り、心に寄り添うケア。近所の方との 付き合いを」を理念に掲げ、地域の中での生活 やかかわりを意識した支援への取り組みがある。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の 実践に向けて日々取り組んでいる	玄関ホール、リビング内に、ホームの雰囲気 を壊すことなく、さりげない理念の掲示があ る。認知症介護にあたっての基本をあえて理念 におくことにより、常に職員の意識に働きかけ る取り組みがある。		
2 地域との支え合い					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員と して、自治会、老人会、行事等、地域活 動に参加し、地元の人々と交流すること に努めている	町内会への加入、町内行事への利用者の参 加、幼児サークルの受入れ、ホームでの町内有 志による獅子舞披露、ホーム行事のお知らせを 配布しての地域住民の見学など、地域交流への 取り組みがある。		
3 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及 び外部評価を実施する意義を理解し、評 価を活かして具体的な改善に取り組んで いる	今回が始めての外部評価受審である。外部評 価を受審するにあたり、職員会議にて話し合 い、自然体で挑み、質の向上に真摯に向き合う 姿勢を確認しあうなどの取り組みが見られた。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会長、行政担当職員、法人代表、施設長、家族、利用者等を交えて、2ヵ月毎の開催がある。行事や利用者の報告、家族から行政へホームの増床の要望が出されるなど、意見交換の場となっている。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政担当職員の運営推進会議への参加がある。また、保護課職員の訪問、介護相談員の受入れなど、行政関係機関との連携への取り組みがある。		
7 追加	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	契約時に、制度等についての説明がある。勉強会等を利用して、職員への理解を図る取り組みは今後の課題である。		制度等について、職員の理解を図るための取り組みを期待します。また、運営推進会議等を利用して、定期的に情報提供の機会を設け、広く情報を発信し、制度の正しい理解と周知に努め、必要な時に確実に利用できるような支援を期待します。
4 理念を実践するための体制					
8 (7)	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族面会時の説明や状況に応じてのその都度の電話連絡などが行われている。利用料金の支払いは、窓口支払いを義務付けており、最低でも月に1度の家族等の面会と面談の機会の確保に努めている。		
9 (8)	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族面会時やその都度の電話連絡、介護計画書の説明時に声かけを行い、意見や思いなどの表出に努めている。出された意見等は、連絡帳を活用して職員間で共有するなどの取り組みがある。		
10 (9)	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入職時は、3ヶ月間の試用期間を設け、先輩職員が見守りながら指導にあたるなど、利用者を考慮した取り組みがある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5 人材の育成と支援					
11	19 追加	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員採用時の制限等は一切行われていない。無資格の職員を採用し、働きながらの資格取得へ向けた援助体制がある。料理を得意とする職員が、他の職員へアドバイスをを行うなど、職員の得意分野で能力を発揮できるような取組みがある。		
12	20 追加	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	管理者については各種研修で行われる人権学習への参加が見られるも、他の職員に対する勉強会等への取組みは、今後の課題である。		高齢者の人権に留まらず、幅広い視点での人権についての勉強会への取組みや運営推進会議を利用した啓発活動など、職員一人ひとりの意識を喚起する取組みに期待します。
13 (10)	21 (19)	職員を育てる取組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者が研修に参加後、報告会の開催がある。一般職員に対するホーム内部での定例化した勉強会や様々な外部研修参加への取組みは、今後の課題である。		月1回、全職員が出席しての会議と勉強会の定例化、および一般職員の外部研修への参加の機会の確保を図り、職員一人ひとりの質の向上及びホーム全体の質の向上への取組みに期待します。
14 (11)	22 (20)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	管理者レベルでの他のグループホームとの交流や情報交換の機会はあるが、職員レベルでの交流等は、今後の課題である。		今後、ホーム行事への他グループホーム職員の参加を計画されています。この計画を実践され、情報交換や相互見学などを通じて、職員一人ひとりの気づきやモチベーションを上げる機会となるような取組みを期待します。

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15 (12)	28 (26)	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居後1ヶ月は、新規利用者の様子を常に観察し、声かけを頻繁に行うなど、新規利用者の不安を和らげるような配慮がある。既に入居している利用者からの積極的な声かけが見られるなど、利用者間での気配りにより、馴染みの関係が構築されている。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16 (13)	29 (27)	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常のかかわりの中で、声かけの方法やタイミング、気づかい、心配りなど、知識のみならず感じることから学ぶ姿勢が伺える。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1 一人ひとりの把握					
17 (14)	35 (33)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常のかかわりを通じて、利用者の思いや意向を把握し、把握した情報はセンター方式を利用するなど、情報共有への取組みがある。		
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18 (15)	38 (36)	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	家族面会時の声かけや介護計画作成に伴う説明時に家族の意見を伺い、日常のかかわりを通じて利用者の思いや希望を把握し、担当者会議にて協議を行い、介護計画を作成している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19 (16)	39 (37)	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行う とともに、見直し以前に対応できない変 化が生じた場合は、本人、家族、必要な 関係者と話し合い、現状に即した新たな 計画を作成している	月に1度、管理者が他の職員から意見を聞き 取りながらのモニタリングがある。全職員によ る月1回程度の利用者・家族の意向や現状の確 認等については、今後の課題である。		心身状況の変化の有無にかかわらず、全利 用者に対して、月1回程度は新鮮な観点から本 人や家族の意向や状況を確認し、職員間で情 報や意見を交換しあう機会の確保を期待しま す。
3 多機能性を活かした柔軟な支援					
20 (17)	41 (39)	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に 応じて、事業所の多機能性を活かした柔 軟な支援をしている	利用者の買い物支援や希望する場所への外出 支援、専門病院への受診対応など、その時々 において柔軟な対応がある。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21 (18)	45 (43)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納 得が得られたかかりつけ医と事業所の関 係を築きながら、適切な医療を受けられ るように支援している	契約時に、ホーム協力医が今までのかかりつ け医かを選ぶことができる。ホーム協力医の往 診以外に、今までのかかりつけ医の往診の受け 入れ、専門病院への受診支援など、適切な医療 受診のための連携を図る取組みがある。		
22 (19)	49 (47)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、できるだけ早い段階から本人や家 族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し 話し合い、全員で方針を共有している	契約時に家族から看取りについての話は出る が、ホームとしての意識的な意向の確認等につ いては、今後の課題である。		重度化や終末期における、利用者・家族の 思いや意向の確認を行っていただき、把握さ れた思い等については、今利用されているセ ンター方式に記すなど、情報の共有に努め、 本人の思いに沿った支援を期待します。

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1 その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23 (20)	52 (50)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損 ねるような言葉かけや対応、記録等の個 人情報の取り扱いをしていない	利用者に対して、常に尊敬の念を持ってケア にあたるよう、その都度の指導がある。各居室 に面会簿を設置するなど、個人情報に配慮した 対応が行われている。		
24 (21)	54 (52)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するの ではなく、一人ひとりのペースを大切に し、その日をどのように過ごしたいか、 希望にそって支援している	ホームとしての流れはあるものの、日中の過 ごし方や就寝時間など、利用者一人ひとりの ペースを尊重しての支援が行われている。ホ ム理念である目配りの中、安全に自由に過 ごす利用者の姿が見受けられた。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25 (22)	56 (54)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人 ひとりの好みや力を活かしながら、利用 者と職員と一緒に準備や食事、片付けを している	利用者の希望に応じての献立作成である。利 用者の状況を見ながら、テーブル拭きや食事時 の号令をしていただくなど、職員と利用者が一 緒に食事の支度にかかわる光景が見受けられ たが、職員は利用者とは別に食事をとっている。		職員の休憩時間の確保等の課題もあるか とは思いますが、食事時における職員と利用 者との様々なかかわりが、利用者にと どのようなメリットを生じさせるか等 について話し合い、より充実した食 事時間を過ごすことができる取組 みに期待します。
26 (23)	59 (57)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めて しまわずに、一人ひとりの希望やタイ ミングに合わせて、入浴を楽しめる ように支援している	基本的に、月・水・金の週3回、10時～15時 までの間での入浴実施である。入浴時間帯や入 浴にかかる時間などは、利用者の希望に 応じて支援している。入浴日以外の希望 に対しては、シャワー浴で対応する などの支援がある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27 (24)	61 (59)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせる ように、一人ひとりの生活歴や力を活か した役割、楽しみごと、気晴らしの支援 をしている	草取り、草花の球根植え、洗濯物の取り入れ や洗濯物たたみ、買い物時の荷物を持ってもら うなど、利用者の状況を見極めた上での支援が ある。食事時の号令は利用者間で持ちまわりで 行うなど、日常の中で利用者の役割を意識した 取り組みがある。		
28 (25)	63 (61)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひ とりのその日の希望にそって、戸外に出 かけられるよう支援している	利用者の希望による買い物、外食、福祉センタ ーへの見学、その都度の散歩など、戸外に出るこ とを意識した支援がある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29 (26)	68 (66)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中 玄関に鍵をかけることの弊害を理解して おり、鍵をかけないケアに取り組んでい る	ホーム出入口は、日中は開鍵されており自 由に出入りすることができる。職員は利用者の 様子を良く観察しており、一緒に出かけたり、 車で外出するなどの対応がある。		
30 (27)	73 (71)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜 を問わず利用者が避難できる方法を身に つけ、日ごろより地域の人々の協力を得 られるよう働きかけている	ホーム独自の避難訓練への取り組みがある。 地域の協力を得るための体制づくりや働きかけ などは、今後の課題である。		定期的な避難訓練の実施や運営推進会議の 場を利用して、非常災害時に近隣の協力が得 られるような取り組みを期待します。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31 (28)	79 (77)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひとり の状態や力、習慣に応じた支援をしてい る	利用者の希望を聞き、料理の本等を参考に、 カロリーや栄養バランスを考慮した献立の作成 がある。利用者の嚥下状態に合わせて小さくほ ぐしたり、刻んだりするなどの食事形態に配慮 した支援がある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32 (29)	83 (81)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台 所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者 にとって不快な音や光がないように配慮 し、生活感や季節感を採り入れて、居心 地よく過ごせるような工夫をしている	玄関ホールは広く開放感があり、ホーム内は 段差がなく、安全に移動ができる造りとなっ ている。リビングの大きな掃きだし窓からは外の 景色を眺めることができ、利用者がソファーで くつろぐ姿から、ゆっくりと過ごしている様子 が伺えた。		
33 (30)	85 (83)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や 家族と相談しながら、使い慣れたものや 好みのものを活かして、本人が居心地よ く過ごせるような工夫をしている	各居室とも、趣味の品や使い慣れた家具、思 い出の品などが持ち込まれており、その人とな りが伺える居室であった。		

は、重点項目。  
(数字)は、国の標準例による番号